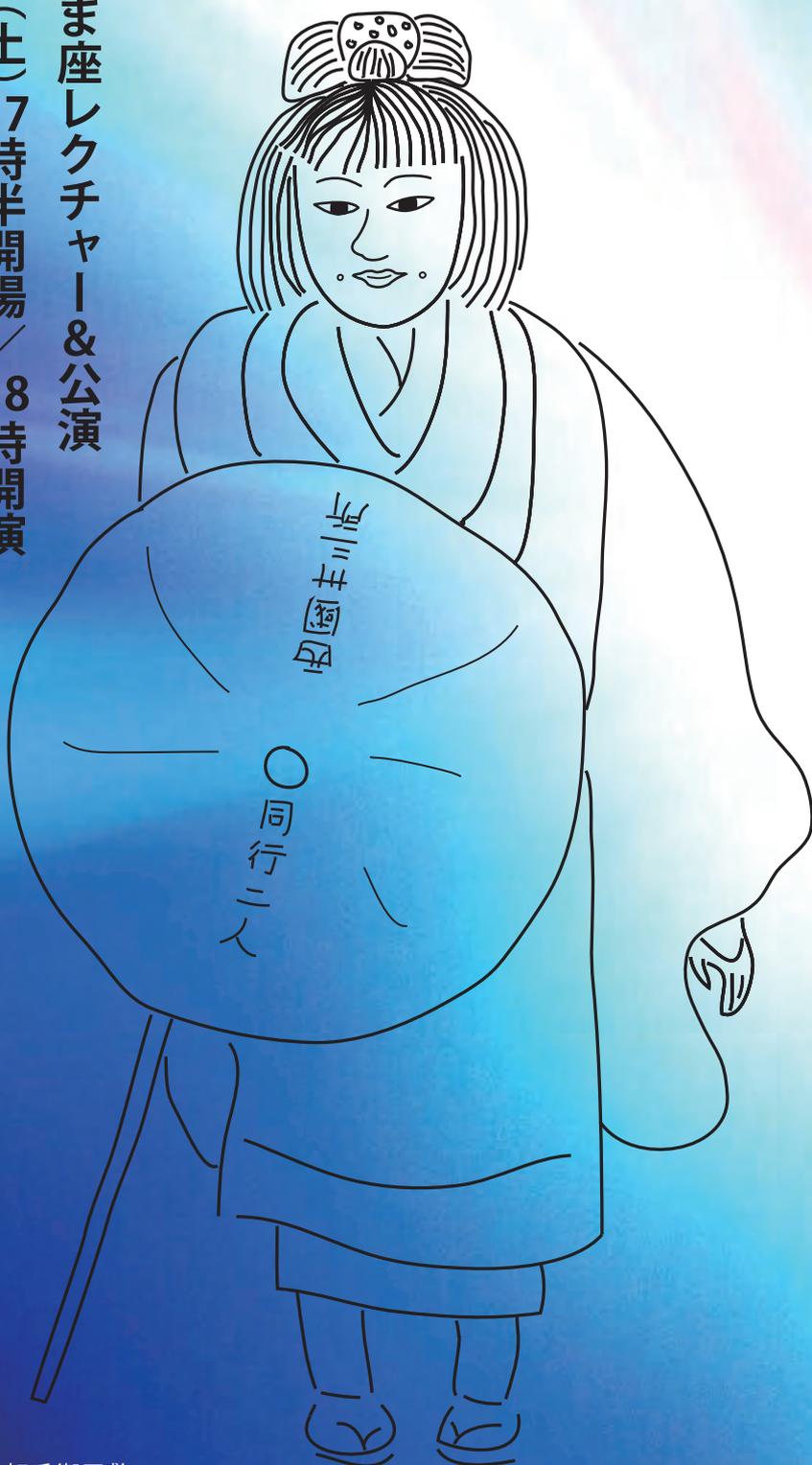


じゅんれいおつるなみだのこもりうた

順礼鶴泪子守唄

— 浄瑠璃と講談と人形



人形浄瑠璃とくしま座レクチャー&公演

平成29年8月5日(土)17時半開場 / 18時開演

徳島の定番「傾城阿波の鳴門順礼歌の段」は、お母さんのお弓が主役。

これを、子供のおつるの視点から見るとどうなるのか、

観客のみなさんのご意見もいただきながら二年間考えてきた新作がいよいよ完成。

情感をたつぷりと語る浄瑠璃と、ユーモアを交えながらテンポ良く展開する講談の

コラボレーションが、人形浄瑠璃に新たな表現の可能性を開きます。

会場 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
徳島市川内町宮島本浦184 Tel.088-665-2202、Fax.088-665-3683、<http://joruri.info/jurobe/>
入場料 一般410円、高・大300円、小・中200円
主催 徳島県地域伝統文化総合活性化委員会、阿波十郎兵衛屋敷、人形浄瑠璃とくしま座
文化庁 平成29年度文化遺産を活かした地域活性化事業

じゅんれいおつるなみだのこもりうた

順礼鶴泪子守唄 — 浄瑠璃と講談と人形



人形浄瑠璃とくしま座

平成19年の国民文化祭で瀬戸内寂聴原作の新作人形浄瑠璃「モラエス恋遍路」を上演するため公募で結成したモラエス人形座を母体に、平成20年4月に発足。元文楽座技芸員の浄瑠璃人形遣い「勘緑」師匠を芸術監督・指導者に迎え、研鑽を積み、各地で公演活動を行っている。

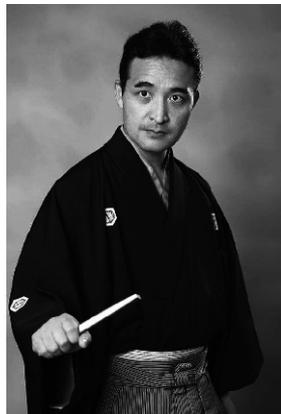
出演

講談師 玉田 玉秀齋

講談のことを何も知らない司法浪人時代に「講談師も弁護士も最後に“し”がつくから一緒や」という師匠の一言で、講談師になった変わり種!! 英語、スウェーデン語などを使いこなす国際派講談師。ジャズ講談など音楽とのコラボレーションも大好評。2011年11月、旭堂小南陽に入門。2004年ブラジルにてポルトガル語講談、7月アメリカ・ボストンにて英語講談を実施。ラジオ NIKKEI「南陽の関西講談ウォーク」毎週土曜日 8:00～放送中。2016年11月に旭堂南陽から四代目玉田玉秀齋を襲名。

浄瑠璃人形遣い 勘緑

元(財)文楽協会技芸員、人形座「木偶舎」主宰。高校の頃から人形を遣い、早稲田大学で演劇を学び、中退後1977年文楽の世界に飛び込む。1979年二世桐竹勘十郎(人間国宝・故人)に入門。1987年から三世吉田蓑助(人間国宝)に師事。人形浄瑠璃の普及・発展と文楽人形の新しい可能性を求めて、2012年1月、33年間在籍した文楽座を辞しフリーの人形遣いに。全国各地の人形芝居の指導・演出や徳島県の農村舞台復活にも積極的に取り組んでいる。



竹本友和嘉 (太夫)

豊澤町子(母)に師事、昭和51年初舞台。平成9年鶴澤友路師匠より竹本友和嘉を拝命、友和嘉会を発足。東京国立劇場での「阿波の芸能」人形浄瑠璃公演や義太夫保存会が主催する国立演芸場の女流義太夫演奏会に出演するほか、数多くの海外公演に参加。平成26年には、鶴澤友勇と「阿波路会」を発足し、人形浄瑠璃の普及と継承に意欲的に活動している。平成14年、人形浄瑠璃因協会奨励賞、平成21年、人形浄瑠璃因協会女子部門奨励賞、平成29年にとくしま芸術文化奨励賞受賞。

鶴澤友勇 (三味線)

昭和53年に鶴澤友路師匠に入門し、昭和60年に淡路人形座に入座。同年、鶴澤友勇を拝命。平成2年より人形浄瑠璃因協会主催女流義太夫公演に年2回出演するほか、数多くの海外公演にも参加。また国立劇場、京都造形大学「春秋座」などへの出演、阿波路会の開催、小中学校対象の「義太夫節三味線のワークショップ」や南あわじ市三原中学校郷土芸能部の太夫、三味線の指導など、幅広く活躍。平成12年に人形浄瑠璃因協会奨励賞、平成25年には第33回伝統文化ポララ賞を受賞。重要無形文化財(総合認定)保持者。

阿波人形浄瑠璃定期公演

阿波十郎兵衛屋敷では、毎日2回、阿波人形浄瑠璃を上演しています。土日、祝日は太夫、三味線の生演奏での上演になります。繊細で丁寧な日本人の感性が息づく芸能の魅力をお楽しみください。

- 上演時間 毎日 11:00～& 14:00～
- 上演演目「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」

